

(1) 食を通じて健康な体をつくる

1-1 ライフスタイルに即したバランスのとれた食生活の実践

エ 講演会、情報発信、料理教室など、大学・学生等と連携しつつ、若い世代をターゲットとした新たな食育の場や機会を創出（検討）していきます。

○令和4年度は名古屋学芸大学の学生さんと連携ができたが、令和5年度以降どこの学生さんとどのような取組を実施していけるか？

- ・令和3年度に実施した食育計画策定ワークショップで、愛知医大の学生さんと交流があったので、何かやっていただけないか。

カ 自ら料理をつくって楽しむ高齢者を増やすため、活動団体等と協力して、高齢者向けの料理教室などの活動を普及・支援していきます。料理方法や食材に関する豆知識など、高齢者の知恵やノウハウを次世代に伝承していくための情報発信やイベント開催に取り組みます。高齢者向けの食育の機会を増やしていけるよう、民間の医療機関・介護事業所などにも協力を呼びかけます。

○高齢者向けの食育イベントの実施や、民間の医療機関・介護事業所等との連携について、実施方法等を検討しなければならないが、どのような方法が考えられるか？

- ・長寿課と保健医療課が協力して文化の家で料理教室を行っている。そこに何らかの形で、みどりの推進課も参加できないか。
- ・たつせがある課より、「北の共生ステーションを拠点に食育活動に取り組んでいる方がいる」との情報を得た。その方に協力を呼びかけてみるか。

1-3 食の安全に関する理解促進

ア 食品の安全性や栄養成分、食物アレルギーなどの正しい情報を広報・リーフレット・ホームページなどを通じて提供していきます。食を提供する民間事業者にも協力を呼びかけ、分かりやすい情報提供を促します。

○令和4年度は6月に広報での特集記事の掲載及びイベントの実施を行った。来年度以降どのような取組を実施していけるか？

- ・令和4年度協力いただいた、民間事業者にリーフレットの作成をお願いできないか。
- ・あぐりん村と協力して、何か良い情報提供の方法が探せないか。

(2) 食を通じて豊かな心を育む

2-1 家族や友人等と食事を楽しむ共食の推進

ア 子どもの孤食は、コミュニケーション不足や栄養の偏りなどの原因となったり、高齢者の孤食は、低栄養やうつ病などの原因となったりするといわれています。孤食が引き起こす悪影響について情報提供するとともに、家族や友人、地域の人とともに食事をする共食の大切さを啓発します。「新しい生活様式」に合わせて、在宅時間を活用して食を楽しむための情報提供を行います。

○ホームページの掲載やイベントの参加者への情報提供だと、見る人が限られてしまう。他にどのような方法が考えられるか？

- ・長寿課等と協力し、既存の事業に参加する形で高齢者向けに情報提供等ができないか。

イ 事業者やNPO等と連携・協力するなどして、高齢者同士や地域の子どもたちとの共食の場づくりを支援します。

○高齢者同士や地域の子どもたちとの共食の場づくりについて、実施方法等の検討を行わなければならないが、どのような方法が考えられるか？

- ・シニアクラブやNPO法人等に聞き取りを行い、既存の事業やニーズの把握を行いたい。

2-2 体験や交流を通じた豊かな人間性の育成と食の理解促進

イ あぐりん村において、生産者と消費者の交流を深めるイベントを開催します。料理教室や料理コンテストなどのイベントを開催し、食に関する知識や調理技術の習得につながる機会を提供していきます。

○生産者と消費者の交流を深めるイベントの開催方法等を検討しなければならないが、どのようなイベント内容が考えられるか？

- ・あぐりん村に聞き取りを行い、既存のイベントやニーズの把握を行いたい。

(3) 食を通じて環境に優しい暮らしを築く

3-2 農業への理解促進と地元農産物の消費拡大

ア 農業が地域に果たす多面的な役割について PR しつつ、地域で生産される農産物の利用促進に向けた啓発、情報発信を行っていきます。また、旬の農産物やその料理方法などについても学習できるように情報発信を工夫していきます。消費者に地域の生産者、農産物についての理解をより深めてもらうために、消費者と生産者との交流の機会を提供していきます。こうした交流を進める中から、消費者と生産者の想いに添った商品、サービスの開発・提供を促していきます。

○令和4年度は夏野菜を使ったレシピの配布を行い、旬の野菜の情報発信を行った。令和5年度以降どのような取組を実施していただけるか？

- ・あぐりん村と協力し、旬の農産物の利用促進に向けた情報発信ができないか。
- ・令和5年度以降の食育イベント等でどのような情報発信ができるか。

(4) 食育を支える取組を推進する

4-1 食育にかかる人材の育成と活動の充実

ア 子ども食堂・高齢者食堂や生産者との交流イベントなど、市民が主体となって取り組む活動が活性化されるように、活動を支援する人材（ボランティア等）の育成、環境整備、情報の共有化を支援します。

○令和4年度、食育活動に取り組んでいる既存のボランティア団体等を発掘するため、HP及び12月広報で呼びかけを行っていく。その他、市が把握できていないボランティア団体等を把握する方法は、どのようなものが考えられるか？

- ・既存のボランティア団体や食育に携わる方に、聞き取りを行ってみる。